

再生紙における古紙パルプ配合率の適正化に向けた当面の措置(案)

例えば、下記のような調査により、古紙パルプ配合率の確認できる方策を検討することがあげられる。

＜サンプル確認方法＞

ハガキとコピー用紙の調査における違い

＜ハガキの調査＞

- 蛍光染料のチェック** :コピー用紙、雑誌、チラシ古紙の判別が可能
- 機械パルプのチェック**:新聞古紙の判別が可能によって古紙パルプの配合率を推定している

コピー用紙は、製品自体に蛍光染料を塗工している製品が多くあるため、必ずしもハガキと同様に明確に配合割合を評価できない可能性がある

また、残留インクも一つの目安となるが脱墨技術の違いで残留度合いは異なり配合率の特定まではできない



印刷情報用紙の原料古紙は新聞古紙とチラシ古紙が主流

試験方法

＜配合状況調査＞

- 蛍光染料のチェック** :コピー用紙、雑誌、チラシ古紙の判別が可能
 - 機械パルプのチェック**:新聞古紙の判別が可能
 - 残留インク観察** :使用済みの古紙の判別
- ↓ 疑念が生じた場合

＜ヒアリング調査＞

- ロット番号から配合表を提示させ、配合表との比較をしながら説明を求める。
利用した古紙の種類が分かれば、概ね矛盾が確認できる可能性が高い。

